石桜同窓会報

石桜同窓会
盛岡市長田町
岩手高等学校内
振替　盛岡3936
印刷　山口北州印刷

五十周年記念事業

大綱を決定す

昭和五十年度年次定例総会は、十一月八日、大清水多賀別館に於て開催された。出席者は約七十名。五十周年記念事業、記念募金等について協議し、記念事業に関する大綱を決定した。（関係記事3面）

定刻二時、熊谷副会長の開会宣言。松見会長、遠藤校長の挨拶に続いて、来賓旧職員小田忠治先生の祝辞があった。

議長に四回生久慈義巳氏を選任して議事に入る。

会務報告（足沢氏）決算報告（村上氏）あり、予算案審議も執行部原案通り可決された。

その他の項では、執行部栃内副会長より、五十周年記念募金状況の報告と、記念事業案の大綱について説明があり、数氏からの質疑、提言の後満場一致で承認された。

総会終了後懇親会に移り盛宴は五時半まで続く。来賓小田先生の音頭で校歌を大合唱、母校の万歳を唱えて散会す。

事業大綱　長期展望に立つものとしては、①岩手奨学会理事評議員との懇談、②募金の強化、③支部組織の育成強化を計る。

創立五十周年記念に関連しては、①記念同窓会の開催（十月中旬予定）②美術展の開催　③記念誌の刊行　④記念講演会の開催　⑤物故者慰霊祭。以上の事業の推進は創立五十周年記念事業実行委員会が当る。実行委員会の結成については執行部一任。予算措置↙

↙については募金の一部充当も考慮する。計画推進については学校当局と緊密な連絡のもとに行う。以上が事業大綱である。

会長挨拶は次の通り。

松見会長　本日は、予算決算審議の他執行部提案の学校創立五十周年記念行事あるいは事業に関する事項も併せて審議戴きたい。

八月十三日、今年も三田商店で理事長にお会いし、ご高説をうけたまわると共に、同窓会としての計画、総意をお伝えした。

第一に、明年度は学校創立満五十周年を迎えるが、学校自体として行事なり事業の計画がおありであるかとの問いに「皆さんで考えやりたいと思うことをやって戴ければよい」とのご回答であった。

第二に学校は現在老朽化し是非再建して戴きたいという絶対的世論がある。同窓会としても、三ヵ年計画で一億円募金を昨年より始め、現在約一千五百万円位の見通しがついた。学校再建の意志がおありであるかとの問いには、明確な回答が得られなかったが、時機が来れば新築する考えはあると想像する。

第三に学校運営については建学の精神に即応しない。国公立高校の亜流では建学の精神に即応しない。私学は私学独自の運営が必要である。

現代は国際進出も盛んであり、外国語に堪能であるか否かが学校の価値なり、人間個人としての進路開拓にもふれてくる。岩手中学高校を卒業した者は語学に堪能であるという社会的評価を得れば、母校の特色、存在をアピールする一つの効果的方法ではないかということも申し上げた。

五十周年記念事業あるいは行事について学校長は、五十周年記念大運動会、大石桜祭（文化祭）、記念式典等場合によっては記念誌の発行もありうるとの話であるが、これに伴う財源措置は非常に困難ではないかと想像する。記念誌刊行が決定しても財源不足ならば、同窓会が肩代りしてもよろしい。

刊行部数二千部として、在校生に学校の歴史を知ってもらう上からも、語弊はあるが購入してもらう。又連絡可能な卒業生三千名中約半数が購入するとして残り千五百部は捌ける。財源措置は充分である。心配せず計画をおし進めて欲しいと学校長に話した。

今年の入学生は二百五十名。諸条件からみて来年度も同程度の生徒が入学すると予想される。母校が健在であることを社会にアピールすることが、非常に重要な段階に来ている。同窓会としても学校と提携し、独走することなく活動し、社会に岩手高校が健在であることをアピールすることにより母校の進展が画されると思う。

本年は総会案内を新聞広告のみにとどめたが、来年は会員一人一人に案内を差し上げて盛大に行ないたい。

名誉校長　佐々木哲郎先生　名古屋でご逝去

名誉校長佐々木哲郎先生は、昭和五十年六月十四日十二時五分、名古屋市民病院で肺炎のためご逝去された。行年九十三歳。

密葬は、十五日十三時、名古屋市緑区鳴海町皆六六長浜喜四郎方（ご長女婿嫁先）で執り行われた。学校からは遠藤校長が参列してご焼香、弔意を表した。なお、埋骨は七月十九日、花巻市の瑞興寺で行われた。

先生は花巻市のご出身、旧制二高、東大哲学科を出られてから、青森、宮城、札幌、新潟、愛知、長野など各地の公私立中学校の教壇に立たれた。

昭和八年、長野中学校長を辞して岩手中学校に迎えられ、第三代学校長に就任された。以来、昭和二十九年十月三十日まで二十年間、多難な時代に母校の教育に尽くされた。

遠藤校長談「佐々木先生はお元気な方で、九十歳を過ぎても読書の手はやすめられなかったと聞いております。厳しさの中にも温情のこもったお人柄でした。

二十年の長きにわたり生徒、職員に与えた感化は偉大なものだったと思います。

ご入院は六月六日、ご長男哲二様と面談されるなど一時は元気をとり戻されましたが、のち昏睡状態となられ、奥様にみまもられておなくなりになりました。密葬、瑞興寺にも参じましたが、ご冥福を祈るものです」。

なお、最近転居された奥様と、アメリカ大使館勤務のご長男の住所は左の通り。

▽東京都府中市住吉町
　二―三〇―二七
　佐々木みき様
▽東京都町田市山崎町
　山崎団地三―五―二〇六
　佐々木哲二様

義正翁小伝

岩中創設の巻（その1）

三田義正、文久元年四月二十一日、盛岡市四ッ家赤川の地で出生す、父義魏、母キヨ。幼名を寅太郎と称し、のち元服して義正と改む。

義正は、まず仙台の英語学校に学ぶが、青雲の志やみ難く更に上京し、津田仙の塾に書生として住み込んで講筵に列した。

津田仙は、幕末の頃、五代友厚に従って米国に渡り、明治六年にはウィーンの万国博覧会に出張して専ら洋式農業を研究し、帰国しては、麻布に私立農学校「学農社」をおこし、併せて農業雑誌を発刊するなど、わが国における洋式農学の創始者である。佐藤昌介（北大総長）や南鷹次郎などもその門下で、津田塾大の創始者津田梅子はその次女である。

この津田塾での薫化がいかに決定的なものであったかは、義正その後の経歴に明瞭であるし、岩中誕生の萌芽もまたこの時代に胚胎する。

維新の余燼さめやらぬ明治初年の東京である。藩閥の世であった。「白河以北一山百文」の東北人評に俊邁多感な義正少年がどれほど口惜し涙にくれたことか。この屈辱一掃の方途は――と義正少年は考えた。これには人材養成以外にない――。この育英思想が学校設立と開花するまでには五十年の歳月が必要であった。

津田塾を巣立った義正は直ちに故山に帰り、新知識をひろめつつ、自らも農業の多角経営を実践した。盛岡市郊外、高松、観武ヶ原方面の広大な地にはじめた洋式農耕、牧畜、製糖事業等がそれである。しかし事業は悉く失敗した。事業の天才をうたわれた義正も、若冠二十歳の頃はまだ才幹機略ともに身につかず失敗の連続であった。

失敗を挽回すべく、政治運動に身を入れたりしたが却って伝来の田地を人手に渡す破目ともなった。失意の果て、北海道に渡って血路を開こうとしたこともあるという。

この失意に起死回生の息吹きを与えたものは、母キヨの激励と、盤根錯節、無言の教訓を垂れる石割桜であった。義正が石割桜を修養の糧としたことは、よく人に語ったところで、岩中校章の由来もここにある。

明治十七年、義正は二十三歳で県会議員に当選した。明治十九年には、父義魏が四十八歳で歿す。義正の政治活動はその後もしばらく続くが、明治二十七八年戦役を機に翻然として実業界に転身する。国運を賭した戦争遂行にあたって、外国から戦費を借用しなければならなかった祖国の実状を深く肝に銘じたからであったという。

以来終始一貫実業界に献身して、後年の所謂三田財閥の基礎を固めるのである。義魏歿後、義正は年少の弟妹達の保護者としてよく世話をしたが、二歳下の弟俊次郎とは特に肝胆相照らした。俊次郎の成し遂げた多くの事業は、義正を抜きにしては考えられない。

また岩手中学の誕生については俊次郎を抜きにしては語れない。

俊次郎は県学務課長の関荘二と昵懇の間柄であった。義正が中学校設立の希望をもっていることを関は俊次郎から聞く。義正と関はまだ面識はなかったが、義正の意気に感じた関は、義正が出資するという十万円での学校経営計画書を作成する。

義正は周到であった。関が作成した計画書を東京まで携えて、貴族院議員鎌田栄吉、文部次官南弘、帝国教育会長沢柳政太郎、元原敬の書記官高橋光威、前本県知事柿沼竹雄らに相談した。即ち理想的な学校を興して老後の仕事として楽しみたいと。義正が描いた理想的な学校がどんなものであったかは、後年翁に呼び出されて「校舎を新築するからお前達二人で設計せよ」と設計を命じられた牟岐喆雄、山中順三が肌で感ずることになる。

さて、相談をかけられた鎌田は十万や二十万では出来ない、百万はかかると言い、高橋は十万でも出来るだろうが……と言ったという。鎌田は文部大臣、枢密顧問官などに任ぜられる前二十五年間も慶応義塾の塾長たりし人である。百万円という額は慶応方式からの算出であった。

（文中敬称略）

記念募金
申込額一千五百万に迫る

五十周年記念募金は、昨年十二月現在で申込者三四八名、申込総額一千四百七十四万円となった。納入金は創立五十周年記念事業特別会計に繰り入れられるが、五十年十月十八日会計監査時の報告では次の通りである。

収入	六、二一一、四〇四円
支出	三八一、三六〇円
（内訳）	
会議費	一、〇五〇円
印刷費	二三〇、九〇〇円
通信費	八一、一九〇円
事務費	三五、〇二〇円
雑費	三三、二〇〇円
差引現在額	五、八三〇、〇四四円

（事務局より）
▽募金趣意書、要項、振替用紙等ご入用の方はお申し出で下さい。
▽募金事務について、ご要望などありましたらお寄せ願います。

校風永扇

大宮市の画家藤林氏の手紙を最近拝見する機会をもった。氏は甲子園の岩高チームを激賞して力作「花と少女」を贈ってくれた人である。手紙は二十年前のもので当時の戸嶋野球部長宛である。全部で四通、絵も素晴らしいが文もよい。ある県立高校長に岩高チームのスクラップを見せた時の様子が書いてある▼「岩手高は私立だ筈だから……」よくない学校というイミでそれがなんだとギロンしました。……岩手高のチームも見ず試合も見ず私立だということでコキオロスとはケシカランです。「KEIOだってワセダだって私立です」とボクは教えてやりましたよ。……ナントオクレタ思想、封建のひからびた心、時代錯誤……（原文のまま）―画伯の痛快な文は続き、県立高校長のマズシサをあわれんでいる。画伯は私学を〝文化〟の視座からみている。延命論的発想はそこにはない▼盛岡に着任した官吏の某氏、はんこ屋に行ってはんこを注文したら半月はかかりますという、ではと名刺を出したら主人にわかに態度を変えて、明日にでもでかしますと言って某氏を驚ろかしたという▼官尊民卑は牢固として抜けがたいお国柄なのか。このはんこ屋さんも校長さんも昔の人とは思えない▼校祖義正翁は一代の英傑、不き独立の人で官尊民卑を殊のほか唾棄された。さればこそ私財を投じて私学も興されたので、その意気その精神豪も福沢、大隈に劣るものではない。近時私学論が盛んであるが、義正翁精神の顕揚こそ急務ではあるまいか。

岩手中高等学校

◦募集人員
　（高校）第1学年　男子…350人
　（中学）第1学年　男子… 40人
◦願書受付
　（高校）1月12日～1月24日
　（中学）2月12日～3月5日
◦試験期日
　（高校）2月2日
　（中学）3月7日
◦試験科目
　（高校）国語・社会・数学・理科・英語
　（中学）国語・算数
●中学校は授業料を徴収しません。
●寄宿舎の施設があります。
事務局／〒020
岩手県盛岡市長田町7番60号
電話（0196）24―4445㈹

本物の書き味！
世界各国の一流メーカー品勢揃い
万年筆の専門店
ペンショップ　中屋
盛岡・大通2丁目
TEL ㉒ 4762

――高き格調――
'76スポーツ品と服装
MIZUNO 美津濃
藤沢体育堂
大通店　盛岡市大通3丁目　㉓1435
支店　サンビルスポーツ部　(51)1515(内線25)
花巻店　花巻市吹張町　(3)2639

喫茶　世界の珈琲をあなたへ
ラムール
盛岡・南大通一丁目
TEL ㉒ 4797

座談会 思い出を語る

とき　12月27日
ところ　丸一
(第6回)

左から平野、田口、西在家、戸嶋、田中、小泉、沢田の各氏

出席者
牧頭　戸嶋　正夫
新八回生　田中　義男
新八回生　田口　節雄
新八回生　小泉　務
新九回生　沢田　重安
司会　西在家　寛

司会　昭和三十年、野球部の甲子園出場は、母校五十年間の歴史の中では最大の花であったと思います。

二昔前のことで時間的には遠くなりましたが、紙吹雪やらパレードなど昨日のことのような気がします。今夕はあの時の感激をここに再現してほしい……。まず主将であった田中君からナインの紹介を……。

田中　投手村川、捕手田中、一塁名久井、二塁平野、三塁板垣、遊撃小泉、左翼佐々木、中堅田口、右翼沢田、監督が川村先生でした。

司会　今は県大会優勝すれば甲子園ゆきとなるが……

戸嶋　あの頃は秋田、青森、岩手の三県の中から代表一校が出た。奥羽大会と称したが、これに出るまでがまた大変、甲子園出場校は全国で二十三校、東北からは二校だけでした。

小泉　奥羽大会には何度か先輩達も出ましたね。

司会　小武方、円子時代ですか。

戸嶋　三度かな、小武方、遠藤らの時も青森までいったが果たせなかった。

司会　八戸高との決勝戦では自信がありましたか。

軟投村川 投打に活躍す

田中　誰といってとび抜けた選手がいるでもなし、みんなどんぐり、挙げれば村川ぐらいのものじゃなかったですか。だから優勝なんて……。

司会　村川は抜群でしたか。

田中　バッテングだったら抜群でしょうね。

戸嶋　いい時に打ったからな、投打に活躍した。

田中　決勝の時に活躍したのは小泉です。小泉が打って村川が還ってきましたから。あの時僕は全然……。

司会　村川は軟投でしたナ……。

戸嶋　ノラリクラリの投手と新聞にも出たもんだ。

小泉　球が沈んでいたから、打たれてもほとんどゴロになった。それに信じられぬほど併殺が多かったですね。スコアブックをみればセカンドの平野なんか少くて四回、多いときは六回もやっている。

司会　県予選では尻上りに好調だったようですね。

田口　一回戦の時、どうも自信がなかった、なにせ盛商との練習試合で大敗してたもんですから……。

沢田　寄宿舎で合宿し、市立高校で練習試合をやりましたね。石川さんなんかがコーチしてくれましたがコールド敗けでしたね。

平野　だから下馬評も常に岩高不利と出ました。

戸嶋　地元紙の某記者だが、いつでも六分四分で劣勢、いくら勝ち進んでも敗ける予想だけだった。それで優勝した時、勝ったのはあんたのお蔭だと言ってやった。事実、練習試合でも分る通り強いなんてものじゃなかった。だが、だんだん調子が出て、試合がそのまま練習の積み重ねという結果になったナ、団結したしね。

司会　予想を裏切り勝ち進んだ原動力は？

田中　やっぱり甘やかされなかったということですね。非常にしいたげられたというか……グランドで野球の練習をするなというお達しでしたからね……。

司会　そうでしたか。

平野　そうなんです。瓦をこわすからと。もっとも村川なんか打つと瓦がとんで危険でもありましたが。それで先生方が帰るまで河北小学校でバント練習、テニスコートも借りました。

沢田　グランドではラグビー部、競技部ともかち合いました。河北小ではスパイクをはかないようにということでしたし……。

小泉　わりとエラーが少なかったのは、岩高グランドのお蔭だね。石ころでよくイレギュラーする。油断をすれば怪我だ。それが市営球場へゆくとイレギュラーなし、安心して守れた。

田口　悪条件だったが、それだけに本当に野球の好きな者だけが残った。一時はセカンドがいなくて中学の部員をつれてきてうめたこともある。

司会　決勝戦のスコアは？

沢田　5―3でした。

田中　ファーストがウイニングボールをキャッチした時、思わずメンコを投げたことをおぼえています。街をパレードした記憶がないですね。

司会　夢心地だったのかナ。エキサイトの場面などは？

田中　八戸高のピッチャーは西鉄にいった中島で、キャプテンでしたがフックスライディング、足を上げてとび込んできて、とばされた。それで思わず頭をポカッとやってしまった。今ならあげられるかナ。

平野　勝ってグランドを一周した。浮き立つような気分と共に不安も湧いてきた。盛岡高が惨敗してきていたから、オラ一体なんじょになるべと沢田君と話したことをおぼえてます。

田中　オガショ（小笠原昭三）さんだと思うが、背後から、負けてもいいからと叫ばれた。オニと思っていた人のその声で、ずっと楽な気分になった。

沢田　球場から車で駅に向かい、それから材木町と盛んに太鼓を打ち、礼を言いながらの行進でした。

戸嶋　前日相談してはいたが、勝った時、あれだけ車が集っていた。驚いた。勝った時に動員かける手筈にはしていた。

田口　トヨタの高橋功さんからも後で言われました。お前達が乗った車は俺が運転したと。

小泉　球場でオープンカーに乗る時、女の子から人形をさし出された、なじょにしようかと思っていたら、戸嶋先生が貰っておけというもんで……（笑）それだけははっきりおぼえています。

天から紙吹雪 市民の好意が身にしみる

戸嶋　在校生、父兄、卒業生が、あれ程一つになったことはない。先頭車には山中校長も乗り、生徒の自転車隊がナインに続いた。松屋、郵便局あたりにさしかかったら、天から紙吹雪、もう甲子園で勝ったみたいな湧きようだ。市民の好意が身にしみてジーンときた。

平野　大通り飯塚あたりでも大変な熱気でした。

田中　先生から挨拶の要領を言われたが、どうもウロおぼえでした。入院中の父に勝利を報告し、家に帰ったら近所の人達が祝勝会をやってくれました。嬉しかったですね。感激は家に帰っていよいよ深まった。

司会　あの長丁場、応援団もよくやりましたね。

田口　相手校はブラスバンドなんかで随分派手なのもありましたね。こちらでは、例の進軍ラッパ。意気あがりました。

戸嶋　あの時は多くの方から大変な恩義を受けた。審判の村松さんは手紙をよこしてくれた。それにはみんなの名前が書いてあり一人一人についても感想が書かれていた。これはラジオの放送原稿で、録音もとった。余談だが、その録音テープは村松さんの葬儀の際、霊前にお供えしてきた。それから盛中OBの米内さん、一高応援団の先頭で棒を振るお爺さんだが真先きに来てお祝を述べてくれた。

夢の甲子園で 法政二高を降す

司会　では甲子園に話をすすめまして……法政二高の手応えはどうでした？

田口　東北勢はそれまでどちらかといえばゴールドゲームみたいな敗け方をしてきている。だから全然見当がつかない。相手は神奈川代表の都会チーム、あの時も新聞は七分三分で岩高が負けると予想していた。

田中　相手のトップバッターはショートの吉沢、彼は主将でもあり、開会式では宣誓もした。その吉沢を村川が三振で討ちとった。それで法政二高に対する恐怖感は消えた。

沢田　試合となれば夢中になるから、勝敗のことはあまり考えない。しかし3―0で降した時は夢のような気分でした。

平野　まあ、どちらかといえば、あまり見苦しくなく終りたいなんてところだったと思う。

司会　坂出商の時はどうでしたか。

小泉　雰囲気が全然違う。あの時の新聞予想は五分五分と出た。坂出の投手の情報なども入り、新聞でも畝投投手とか書かれていたが、いざバッターボックスに立ってみると、今までみたこともない剛速球が飛んでくる。

田口　向うの畝投は、こちらにくれば速球投手、どうやら基準が違うらしい。

司会　準優勝した坂出商に3―1と迫ったのだから、悔はなかったですね。

田中　完敗ではありませんから……旅館の名前が三福だったので三回戦までゆくかと思ったのですが……

司会　一矢は報いたからね、ところでファインプレー、珍プレーの思い出は？

小泉　ファインプレーは沢野ですね。

沢田　いや、あれは珍プレーです。

田中　あれはファインプレーと新聞に出ていた。

平野　僕が一塁の方に走ったから、それについて走ったのだ。ところがボールはアッチ。

沢田　なにせスタンドが白一色なもんですから、球がみえない、逆方向に走ったんです。

田口　あわや三塁打というところでしたが……。

司会　珍プレー変じてファインプレーとなる……それも練習の賜物ですね。

田口　坂出に敗けて戸嶋先生に謝ろうとしたら、先生はニコニコして、よかったよかったと言ってくれたんで、あの時だけは、先生喜んでくれてると思いましたね。（笑）

戸嶋　極限まで力を出すということだ。

応援も戦力をもり上げる一つだが、毎日新聞の上田常隆氏もよく三福旅館に来られた。三田商店の社員や三和銀行の社長もわざわざ訪ねてくれた。

田中　南海にいた円子先輩もきてくれました。郷土の応援隊は四五百人ぐらいだったと思います。写真をみると、ラサ工業の社長さんのハッピ姿もあります。

田口　マネジャーの小田島君よくやってくれた。

沢田　中川さん、瀬川さん、それに付添医の久保田先生には……

小泉　一生頭が上らないです。

司会　石桜新聞35号の座談会記事をみると、甲子園までの勝因として、戸嶋部長は次のように言っておられる。―平素の生活態度がよかった。それに①よく練習した②指導者の言葉をよく守った③チームワークは今までにないくらいよかったと。よく練習したというその練習ぶりについて……

田口　三百本ノック。腰が立たなくなりました。監督の川村先生は、最低の状態でどのくらいやれるか試されたといいます。我々は恵まれていました。

田中　高田松原で雨の日に練習がないなと思っていたら海岸の往復、砂の固いうちはいいが、サクサクの砂には足をとられる。チームワーク乱したから又いってこいなどとやられた。

小泉　好摩合宿もつらかった。暗いうちから川昌さんはノックをやっているんです。

平野　俺らは飯炊き、学校から鍋をもっていった。

沢田　よくこがした、こげ飯弁当に沢庵などで、人前には出せそうもない、部室でボソボソ食べた。

田中　市営球場での練習も忘れられない。猛ノック何百本、田口なんか動かない、いや動けなくて川昌さんにバットで尻をたたかれた、素直な球など一つもこない、こちらかと思えばあちら、あちらと思えば又こちらだ。声も出なくなる。

沢田　小泉一衛さんのところからは牛乳が何百本きたか分らない。牛乳をガブガブ飲んでは昔下痢になった。下痢になっても練習は休まれない。

司会　頑張り屋揃いでしたナ。

田口　野球部員で単位を落す者はいなかったです。模擬試験で板垣が、ある科目で最高点をとったりしましたよ。

司会　下級生からみて上級生はどうでした？

沢田　田中さんがおっかなかったですね。メンでガツンとくるもんで（笑）

小泉　低学年の頃は部室でよく正座などさせられたが、おれらの時はやらなかった。

平野　時効になったから言うが（笑）会議室でのビンタもなつかしい思い出だ。盛工と練習試合をやったが、後始末を三年生にやらせて二年生以下が帰ってしまったから事件となった。

田口　電話で呼び出されて、六人が合計七発やられました。

司会　勘定が合いませんナ。

田口　一人で二発頂戴した人もいるから……（笑）

戸嶋　恐らくそれはキャプテンでしょうナ（笑）

チームの品位を 画伯が激賞

司会　ところで校長室にある「花と少女」の油絵は甲子園のよい記念ですね。

戸嶋　あれは大宮市に住むフジバヤシ・サイカンという画家から贈られたものです。この画家は非常な高校野球ファンで甲子園は欠かさない。甲子園出場チームの中から最も気に入ったチーム二校をえらんで作品を贈ることにしてるんです。何度か手紙も交換しましたが、岩高のチームカラーに惚れこんで激賞してるんですよ。岩手高校には立派な品格がありましたので動かされました。

沢田　僕らも色紙を贈られました。打球フォームなどが画かれてます。

小泉　全国の高校生にくらべて非常に高校生らしいという評でしたが、あの位にしか出来なかったというのが本音ですね。

田中　授業料滞納の僕が卒業できたのは石桜会功労賞のお蔭です。今伜が甲子園の参加賞や功労賞を持ち出して帽子やバンドにつけたりして困ります。（笑）

戸嶋　功労賞を正選手九名に与えたが、団体での受賞は初めてのことだった。

司会　あの頃はよく選手の親御さんが球場にきましたね。

田中　病気で休んでいたら、練習はないのかと親父が自転車で球場に運んでくれたことがありました。

戸嶋　スポーツが強くなるには、親だよ。親が子供を頑張れと励ましてやることだ。ラグビーで黒工、秋工が強いのはそれだ。

司会　来年こそは甲子園へとゆきたいですね。ではこの辺で…。

肉のデパート
まる岩
盛岡市上田 TEL (24) 6565

カメラの一番安い店
カラー・D.P.E・各種撮影
盛岡カメラ
材木町 まんなか TEL (22) 7457

メガネは専門店で　各眼科病院指定
メガネとコンタクト
メガネの 水晶堂
中の橋店・中央通店・サンビル店・盛岡駅店

総会報告

概況—熊谷副会長開会宣言、松見会長挨拶（1面掲載）、遠藤校長挨拶、来賓挨拶。久慈義巳氏を議長として五十周年記念事業について協議。栃内副会長の執行部案説明、鱒沢似内、藤村、目時氏等より質疑提言あって記念事業大綱（1面掲載）は承認された。以下は挨拶要旨。

遠藤校長　今日はお元気な皆さんにお目にかかれて嬉しい。教職員またご招待いただき有難い。生徒が平素クラブ活動でお世話になっており、この席よりお礼申上げます。

三田義正翁が大正十五年岩手中学校を創設してより五十年の歳月が経過し、この間多くの卒業生を世に送り出した。旧制岩手中学校卒業生千四百五十五名、新制岩手中学校卒業生二千七百七十七名、岩手高等学校卒業生四千五十六名、旧制岩中新制岩高卒業生を合計して五千五百十一名、それぞれ各界で活躍している。

現在学校は教職員三十二名、用務員四名。生徒数、五十年度高校入学者二百五十名を含め、中高合わせて丁度六百名である。新入生二百五十名収容できたが、皆さんのご協力も大きかったと感謝している。

四十九年度卒業生の進路は、卒業生数百一名中、大学進学者五十余名（新旧合わせて八十四名）、四十数名は現在来春に備えて準備中、就職者は普通高校である関係上九名と少ない。

岩手中学校については、昨年岩手高等学校の母胎である岩手中学校がないことは、極めて遺憾であるという考えから、困難を予想されたが再募集に踏み切り、現在一年、二年合わせて二十八名、小人数ではあるが元気に通学している。来年度も募集するので格段の協力を願いたい。

最後にこのような席で憚ることであるが、本校の名誉校長、佐々木哲郎先生六月十四日、九十三歳でご逝去されたとの訃報を理事長より頂戴し、十五日名古屋での密葬に参列した。

菩提寺は花巻の瑞興寺、本葬はお盆頃と伺っていたが、奥様ご高齢であること等々の事情により埋骨だけ済せたとのこと後日知らされた。皆様と共にご冥福を祈りたい。

小田先生　岩中を去って四十三年ぶり、旧職員としてご招待いただき、足が地につかない嬉しさでとんで参りました。一生、岩中とは縁がないのかとひがんでいましたが…過日は目時先生のクラスに招かれて同じような感想を持ちました。私が赴任した昭和六年には松見先生、遠藤先生、稗貫先生などは既に卒業されていましたが、校長室にかかっていた名札にその名前があったことを記憶しています。岩手山頂の石碑の前で創立の精神をしのんだことも忘れられません。

初代校長鈴木卓苗先生が生徒に訓辞されるのは、かけ出しの私には、私に言われているように聞こえました。今でも岩中の校歌を歌う時は涙がにじんできます。あの歌詞、曲のよさ……。

卓苗先生とはよくこの多賀にもきました。酒席でのご指導もいただき今日に思い出に残るものを身につけました。

この席に参りまして校長先生から色々ご苦心の話を承り、非常に尊いことである、こうして人間の社会というものは栄えていくのであると感じました。私は今まで三つの私立学校を経験しています。

母校を大切にする皆さんのお気持を尊く思う、どうか岩中、岩高が石碑をたてた当時の精神というもの、人間の心を尊重するという岩中創立の精神を長く伝えてほしいと思う。

執行部案要旨（栃内副会長）　事業計画は、大別して校舎問題と創立五十周年記念関係の二点にしぼってたてた。

校舎問題は、もとより同窓会の独走すべき問題ではない。毎年理事長との話し合いは進めているが、それを一歩前進させ、学校経営の主体である岩手奨学会理事、及び評議員との懇談会を開き、同窓会の意のあるところを汲んで戴き、理解を深めてゆきたい。

第二に、五十周年記念募金の強化。募金活動は昨年より実施し、十一月一日現在、旧制一回から十八回迄百二十五名申し込み、金額八百四十九万円、実納入三百三十四万五千円、新制一回から二十六回迄二百二十九名申し込み、金額六百十八万円、実納入三百六十五万五千円。新旧合計すると三百五十四名申し込み、千四百六十七万円、実納入金額七百万円である。協力者数は案内申し上げた会員数の約一割なので、この強化をはかる。

第三に各支部との連絡を緊密にし、支部の育成強化をはかる。また職場支部を組織することにより、募金活動の趣旨を徹底し促進する。

創立五十周年記念については、あくまでも学校自体の記念行事と関連があるので、相提携して実施することを前提とする。

第一に創立五十周年記念同窓会の開催である。五十周年という一つの区切りでもあり、各回、各地よりもれなくご参会いただき盛大な記念同窓会を開催したい。

第二に記念事業として次の三つを予定している。

その一は美術展の開催である。卒業生の中には、絵画彫刻等芸術界に進出しておる方も多く、小笠原哲治先生を中心に同窓生、在校生を含めた合同美術展が開催できれば、かなりの規模のことができると考える。

その二は記念誌の刊行である。五十周年という歴史の区切りでもあり、是非記念誌を刊行し、これに対する財源協力をする。

その三は同窓会総会において、格調高い記念講演会をもつ、この三点である。

以上の事項実施については創立五十周年記念実行委員会を結成して計画推進を期す。

尚これに伴う予算措置は五十周年記念募金の中に求める。

早春の孔子廟

絵・小笠原　哲二
文・西在家　寛

簗川橋を渡ると小高い丘がある。疎林に囲まれた山容は優美である。頂上の堂宇を孔子廟という。藩学儒教の名残りをここにとどめて、ひっそりと立つ。

残雪か晩秋の頃が一番いいと先生は言われたが、アトリエ訪問の翌日、この地を訪ねてみた。

積雪を踏んで堂にいたれば、ちまたの騒音はとどかず、閑寂である。野鳥が群れて飛びたった。

節ともなれば、野宴や句会の場ともなり、小学生の写生隊も来るという。

堂内には孔子像が安置されてますと、ゆきずりの人が教えてくれた。

宴もたけなわ—懇親会風景—

昭和49年度決算報告

Ⅰ　経常部

（収入）	円
会費	322,500
入会金	10,100
総会会券代	200,200
利子	6,245
雑収入	61,800
繰越金	281,097
合計	**881,942**
（支出）	
会議費	205,870
印刷費	216,790
石桜会補助	50,000
慶弔費	10,000
通信費	80,110
事務費	3,000
事務手当	24,000
雑費	34,370
基金部編入	100,000
予備費	0
合計	**724,140**
差引総額	157,802

Ⅱ　特別会計（基金部）

経常部より編入	100,000
利子	59,475
繰越金	1,410,868
合計	**1,570,343**

昭和50年度予算

Ⅰ　経常部

（収入）	円
会費	395,000
入会金	14,800
総会会券代	200,000
利子	5,000
雑収入	40,000
繰越金	157,802
合計	**812,602**
（支出）	
会議費	220,000
印刷費	220,000
石桜会補助	50,000
慶弔費	20,000
通信費	100,000
事務費	5,000
事務手当	24,000
雑費	50,000
基金部編入	100,000
予備費	23,602
合計	**812,602**

Ⅱ　特別会計（基金部）

経常部より編入	100,000
利子	60,000
繰越金	1,570,343
合計	**1,730,343**

五十周年記念募金申込者名

50年12月現在（第2回）

三万円杉村昌三　三万円吉田耕造　十五万円工藤久吉　三万円竹田仁太郎　十万円松浦文弥　三万円菊地常雄　三万円佐藤新平　三万円辻信夫　三万円三好太郎　五万円目時隆太郎　三万円玉山恵　三万円大沢善吉　五万円佐々木長一郎　三万円石井重郎　十万円久慈義巳　三万円村井忠　三万円熊谷竜男　三万円佐藤全一　五万円三島曄　三万円川村英男　三万円津軽石義雄　十万円加藤三千雄　十万円李徳卿　六万円菊池強　五万円佐藤武夫　三万円鈴木一　三万円遠藤秀雄　五万円佐藤正吉　十万円栃内松四郎　三万円志田幸一　十万円佐々木甲子夫　三十万円一戸凱里　五万円国定貫　五万円谷口広一郎　三十万円大沼憲雄　十万円北条健　三万円鱒沢昇

三万円佐藤喜兵衛　三万円三上佳也　三万円村井孝　三万円小原順造　三万円村上知士　二十万円金田一阜造　三万円臼沢正充　三万円照井守　三万円河村透　三万円鷹觜達衛　五万円佐藤和照　三万円太田代実　三万円佐久間和夫　三万円大釜賢三　三万円浅田常夫　三万円佐藤康弘　三万円佐々木啓祐　三万円藤村勲　三万円片岸晟　三万円荒川満昭　三万円藤原一彦　三万円小林安蔵　三万円四戸孝丸　三万円中島勇　三万円萩原正典　三万円下越田益男　二十万円伊藤秀蔵　三万円加藤恵　三万円岩渕一義　三万円萩原貞夫　三万円今野文雄　三万円佐々木敬一　五万円大橋義平　三万円中山利彦　三万円細川磐夫　三万円丹内禅海　三万円浦田隆　三万円村井健祐　三万円牛崎修治　三万円村田篤司　三万円熱海宏信　三万円阿部秀充　三万円根沢守　二十万円後藤康文　三万円宇土沢広司　五万円千代川泰久　三万円佐藤哲郎　三万円小松貞一　三万円須貝雅宏　三万円工藤紀夫　三万円岩持一見　五万円漆戸芳夫　三万円工藤君雄　三万円西村紀昭　三万円斎藤正太郎　三万円吉田正次　三万円田中紀平　三万円佐藤洸　三万円藤島利久　三万円白沢昭男　三万円名郷根芳徳　三万円篭屋徹　三万円大井正志　三万円高橋勇　一万円高橋清孝　一万円畠山厳　一万円中島昌孝　一万円対馬正宣　一万円中沢正博　一万円晴山宏　三万円福田興一　一万円矢羽々一雄　一万円斎藤英明　一万円渡辺晋一　一万円井上利一　一万円沢口範雄　一万円工藤和夫　一万円芋田佑造　一万円阿部康男　一万円照井幸司　一万円渡辺勉　一万円小林勝雄　一万円佐藤政克　五万円榎戸三郎　一万円中居正和　一万円石川進　二万円熊谷久司　一万円柴田継家　一万円川村隆一　一万円生内恵三　一万円福士高幹　一万円大場祐二　一万円佐々木進　一万円川村昌司　一万円大山稔　一万円目時隆士　一万円楢山義彦　一万円小豆島正典　一万円細川文男　一万円三浦聡　一万円宇部文雄　一万円三田地時仁　一万円桜井保典　一万円川又勝見　一万円藤沼忠博　一万円畑沢昌美　一万円川村康二　一万円岩崎仁　三万円岡村秀貴　一万円竹下茂義　一万円倉光聖　二万円渡辺賢司　一万円吉田祐一　一万円小原洋一　一万円木村磐　一万円高橋弘　一万円羽行常人　一万円吉田修　一万円高橋国士　一万円小野申三　一万円三浦由太　一万円箱石寛之　三万円坂本義邦　五万円松尾景康　一万円佐々木英一郎　五万円米島重悦　三万円河辺栄吉　一万円河辺敬　三万円宇夫方貞夫　五万円藤村清一（敬称略）

一六〇名

六百五万円

累計壱千四百七拾四万円

終身会費納入者名

50年12月現在（第8回）

十三回生　大沼憲雄
十四回生　高橋忠一
新一回生　円子幹夫
新二回生　荒川満昭
　　　　　中島　勇
新五回生　熊谷壮一郎
新七回生　伊藤　仁
新八回生　熊谷　実
　　　　　堀　孝範
新十三回生　吉田明夫
（敬称略）

餃子専門の店
パイカル
内丸本店 TEL (22) 7242
青山町支店 TEL (47) 1442
日の出ビル店 TEL (52) 5104
タツミビル支店 TEL (23) 9171

友寿司
盛岡市新田町10の4
TEL (24) 0806

ヤマハピアノ・エレクトーン・ステレオ
有限会社 伊藤楽器店
盛岡市中央通り1丁目11の12
TEL (24) 3854

カナダ遊記

浅理克己

私がカメラを始めたのは二年位前からです。五十の手習とは言うもののすぐ夢中になる方で、今回は被写体を海外に求めてカナダの国立公園、ロッキーのにおいと草原の風、氷河の涼気を胸一杯に吸って参りました。

旅行中は日本のカメラマンと言うことで、服装その他総べてプロカメラマン張りで出かけました。お蔭で色々と便利を与えられ、私にとっては始めての海外旅行でしたが、本当に素晴らしい旅でありました。

私共一行は、ヴィーヴル会社のカナダ・インサイド・パッセージと言うツアーで、同行二十一名に、素晴らしい女性ガイドさんが、いたれりつくせりのお世話をして下さり、全く、日々是好日なりとはこのことでしょうか。

さて、ここで一応の説明をわかりやすくするため、日程を記します。

7月30日夕東京発—バンクーバ着7月30日11時（時差のため）。7月31日9時バンクーバ発—（フェリボート・バス）ビクトリア着16時30分。8月1日ビクトリア発—（バス）キャンベル・リバーを径てケルセイ・ベイ着—乗船（船中泊）。8月2日朝プリンス・ルパート着。8月3日正午プリンス・ルパート発—（カナダ国有鉄道車中泊）。8月4日9時ジャスパー着、バスでコロンビア・アイスフィールド・ハイウェイ、夕刻バンフ国立公園着。8月5日バンフで自由行動。8月6日バンフ13時発—レイク・ルイーズ着。8月7日11時レイク・ルイーズ発—カルガリー空港—バンクーバ発17時。8月8日18時45分東京着。

バンクーバー　カナダの玄関口で、カナダ第三の都市紺碧の海、豊かな緑、北欧的な美しさをもつこの都市は私共ツアーの起点になりました。市内見物と買物、スナップ撮影となかなか多忙なスケジュールで始まりました。カナダの特産品である毛皮はここで買った方がよいと言われたが買わずに帰り、帰ってから家内に散々言われて今だにおさまらない状態です。

ビクトリア　バンクーバー島の最東南端にある都市でカナダ・ブリティッシュ・コロンビア州の州都で人口六万、アメリカの開拓時代とゴールドラッシュ時代を通じて、その中心基地として栄えた所であります。

バンクーバーからは、フェリーボートとバスを利用して約三時間程で着きましたが、いわゆる州庁が本土とこれ程離れて、州の政治上不便を感じないだろうかと思いましたが、何しろ、国そのものが日本の二十五倍もある国ですからものの考え方も日本と全く異なることだろうと思いました。

この都市の北十六粁程の所に、素晴らしいブッチャード・ガーデンがあり、百三十エーカーの広大な庭園は、ロバード・ブッチャー夫妻の努力によって、石灰岩の荒地から美しい花園へと作りかえられたもので、珍らしい木や花が四季を通じて咲き乱れています。

キャンベル・リバー　ビクトリアからバンクーバー島の東海岸に沿って走るハイウェイを二百五十粁北上した所にあるキャンベル川畔の町です。林業と漁業の中心地であり、私共はこの町で昼食をとり、更に北上して、インサイド・パッセージ・クルーズの乗船地ケルセイ・ベイに到着。クイーンオブプリンスルパート号（車両九十台、人員四百三十人）に乗船。インサイド・パッセージとよばれる美しい水路を通りました。ここはかってスペインやイギリスの探検家達が中国への航路を求めてさまよい、ロシアのあざらし船やボストンの捕鯨船が出没していたところであります。

今は、この水道やフィヨルドは、かすむ山々、氷河、滝、大森林、魅惑的な入江等変化に富んだ景色は私共の旅情を一層素晴らしいものへと導く序曲ではなかろうかと思いました。船中の食事、ティータイム二人用の寝室、なかなかの快適な船の旅でありました。

約二十時間、翌朝九時、プリンス・ルパートに到着船はそのままアラスカへと出航しました。

プリンスルパート　アラスカに近い港町、自然港としては世界第三の大きさを誇るもので、漁船を始め、木材の積出しで賑わいをみせていますが、ここは最も大きいキングサーモンの釣れるところで、友人と二人、ライセンス・ガイドのジュン・セストラップ君の案内で、キングサーモン釣に出かけました。彼の持っている船は仲々立派で、時速六十粁を出すモーターボートで入江をくぐりぬけながら大平洋の見える近くまで出て釣り始めました。その方法は、トローリングで、主エンジンを止め、副エンジンで約百米程ナイロンを送り、当りを待っていました。突如友人に強引な当りがあり、私も糸を捲まぬよう巻き上げ乍ら、友人の奮闘ぶりを非常な緊張感で見ていましたが、ジェン君が、それ来たれ、とばかり船側に出て彼を誘導して一米を越えるキングサーモンをタモに入れました。友人共々、しばし呆然としてその勝利に酔いしびれていました。

海釣りの経験は私には少ないのですが、川釣りに於ては、かって、サンデープロと言われた程に負けては沽券にかかわるとばかりエキサイト、程なく大きな当りがわが方にも来た。格闘に格闘、重く強引な当りに何だろう。ジェン君は「ヘーリバート」と言った。タモの中にはこれ又一米を越える平目の大きいのが入っていた。日本名で「おひょう」である。その後友人はキングサーモン三本私にはおひょうのみ三本で、いずれも一米を越す大物ばかりであった。私共は大漁に酔いしびれながら同行の人達に報告、その夜は日本人の経営する中華料理店でキングサーモン、おひょう（大平目）の刺身に一同大喜び、帰国する迄感謝され通しであった。

さて、プリンス・ルパートに身を引かれる思いでいよいよ、カナダ、ロッキーのツアーへとカナダ国有鉄道に乗車、これが二十時間余の汽車の旅である。私の部屋は一人用の洗面、トイレ、ベット付で仲々贅沢なもので、旅の面白さを充分味わった次第である。車中カナダロッキーのスケールの雄大さに驚き、車中の食事の美味しいこと、日本の食堂車とは、天地の差で、汽車の旅の素晴しさを充分満喫して来ました。ここの汽車運賃は、毎年年度始めに公表され、それは季節と曜日によって違いがあります。土、日と観光シーズンの七、八、九月は高くなって合理的に出来ています。しかも客車は一日一本しかありません。普通の交通機関は自動車と飛行機が主で、汽車に乗るのは今は殆んど観光者が主です。ですからシーズンに、フリーで行って乗車券を求めることは殆んど不可能かと思います。

ジャスパー　ここで汽車の旅に終りを告げ、いよいよジャスパー国立公園とバンフ国立公園を結ぶ、二百二十七粁のコロンビア・アイスフィールドハイウェイを走ることになりました。

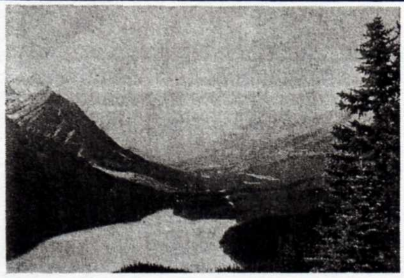
コロビア大氷河を始め、エメラルド湖、ルイーズ湖、さまざまな湖や滝、唯々素晴らしいの一語につきるドライブ旅行でありました。

翌日、ルイーズ湖の撮影（帰国後、全紙大に引き伸ばしてみました）午後からハイウェイを避け一A号線をバンフまでドライブ。このドライブでは沢山の野生動物を見ることが出来ました。

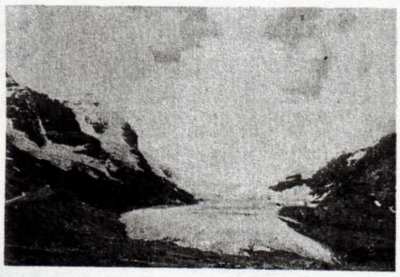
帰国の途へ　バンフより車で空港のあるカルガリーへ。バンクーバーで乗り替えで帰国の途へ着きました。

帰国後、写真を整理しながら旅を思い出し、再び訪れることを楽しみにしています。私の主たる目的は、風景写真の撮影でしたが、何か目的をもって、例えば植物とか動物とかについて一応調べて行かれるならば尚一層、楽しいことと思います。

（12回生・歯科医）



千古の神秘、ルイーズ湖



コロンビア大氷河

路上散歩の親子グマ

OB会コーナー

◆庭球部は古い伝統をほこりながら、後援会組織が確立していなかった。そこで、組織化の容易な若い卒業生だけでも集まり、何とか後援会を作ろうという運びとなった。

これまで数度の準備委員会をへて、五十年七月正式に「村桜会」設立の運びとなった。会長に下斗米亮、副会長に沢口範雄、事務局長に高橋秀彦、藤原英一、東京支部長に石川幸雄を選出して"日本一の庭球部"づくりに余念がない。

◆卓球部OB会の松村論氏が少しでも多くの人々に卓球を楽しんでもらおうと、盛岡市青山二丁目に盛岡卓球会館を設立してこの程オープンした。気軽に親しめる卓球をどうぞ、ゼヒ一度ご来館を……とは松村氏の弁。

◆名門、石桜ハンドボールクラブ復活す。室内ハンドボールは今春十八回目の大会を迎えるが、その第一回大会の優勝チームが石桜クラブとはあまり知られていない。今年度は当時のプレーヤーが夢よもう一度と集まり、社会人リーグに加盟、善戦したが一勝一分五敗とふるわず七位。室内ハンドはA・B二チーム編成の出場だが、現在メンバー16名、まだまだ不足。昔のプレーヤーから、卒業予定の現役まで広く募集中。連絡は及川紘氏へ☎(22)4762

◆ラグビー部OB会が誕生した。『石桜クラブ』と称しジャージーもなつかしのブラックイエロー。県体、市長杯リーグ戦に参加、交流試合も宮古ラガー、久慈クラブ、仙台北陵等と対戦、まずまずの戦績であった。現役との交流としては、練習試合はもちろん、合宿への参加等、例年にない指導体制を築いた。来シーズンは、若手の補強を急務とし、現在の平均年令二十八歳を三、四歳引上げ、全員そろって練習することである。連絡は二上憲育会長(51)9026へ

石桜短信

久慈支部例会　五十年一月二十九日、於琴平、二十二名参加。

滝沢支部総会　三月十六日於鳳温泉。十七名参加。

ラクビーOB会　三月二十七日、於昌寿司、結成総会。

畑山光昭氏(17)三月、岩手陸協理事長に就任。

中島清一氏(4)四月、岩手高校PTA会長に就任。

玉山勝巳氏(2)**久慈義巳氏**(4)四月十三日、県議当選。

村上昭夫詩碑除幕。四月二十九日午前十時、高松一丁目盛岡市立図書館構内において。

盛岡市役所支部総会　五月十六日、於京極、本部より松見会長出席す。

雫石支部総会　五月二十四日、於小枝旅館、参会四十名、松見会長出席。事務局は雫石役場佐々木敞氏。

細越紀平氏(新2)六月明治図書から「進路を考える母親へ」を出版。

十五期会　八月二日、於繋温泉日東館、参加二十三名。卒業三十周年記念同級会。ゲスト小笠原、戸嶋両先生。

十六期会　八月十七日、於八幡平ハイツ、参加十六名。ゲスト戸嶋先生。小山田氏が我孫子の山中先生より託された動員時の作文などが各自に手渡され、しばし三十年前の回想にひたった。

一条育巳氏(新7)十月日本棋院岩手県支部長に就任。囲碁五段。

アイスホッケーOB会　十一月十日、ぎのえね支店に於て総会開催。

近藤一彦氏(17)十一月三十日から十二月四日まで個展、於教育会館。三月には二五〇回目の個展を県民会館で開催予定。

村上誠氏(新17)版画展五十一年一月二日から十五日まで、於喫茶ママ。

松村論氏(新20)一月三日、青山二丁目に盛岡卓球会館を開設オープン。

岩中新22期会　一月四日於小鳩寿司。参加三十八名、ゲスト菊地(治)先生

宮古支部結成総会　十一月十五日、於レストラン堀田。本部より松見会長出席会長 加藤英夫、副会長 若山忠一、大沢得次郎、理事伊藤豊一、北口吉蔵、坂下義尚、田中岩吉、阿部末吉、小山田行男、花館英世、後藤康文、古館和男、榊正志、藤岡庄蔵、伊藤勢至、小山田舜次郎、監事和山兵三郎、山根鉄男、幹事吉田正次、堀田尚志の各氏。

小野一男氏(3)十一月盛岡日赤病院長に就任。

藤井英明氏(新21)二月二十四日羽田発アメリカ行の予定。アメリカ建国二百年を祝し、自動車で全米を周回して、日本姉妹都市からのメッセージを各地の都市に届ける。

工藤一氏(新24)中米ベネゼイラに柔道師範として招かる。東洋大卒業後直ちに赴任予定。

編集後記

▽本紙も創刊十号を迎えました。同窓のオルガナイザーとしてはまだまだ微力、今後とも一層のご支援をお願いいたします。

▽母校創立五十年、義正翁の決意表明は五十年前の二月十一日。その日関係者は紀元節の大礼服のまま三田邸に集まったという。以来五十年。先人の意気を思うべし。この節目を大事にしてゆきたい。

▽年頭、アメリカ行の藤井君の来訪をうけた。全米四万キロ、車で走破するという壮大なプラン。いま一人はベネゼイラ行の工藤君。中米に石桜健児の意気をと頼母しい。両君のご無事ご健闘を祈りたい。(Z)

事務機械の専門店
株式会社　平金商店
盛岡市中ノ橋通り1の5の31
TEL　盛岡　代表(24)2121

名産　盛岡りんご
(有)藤徳果実
盛岡駅前通7—14　TEL(22)4398

高原シャツ・まるいし学生服
高級紳士・婦人服一般卸
東北総代理店　佐藤被服
盛岡市肴町　TEL(代)(24)3797

カメラ
DPE　村井カメラ材料店
出張撮影
盛岡市肴町10の9　TEL(22)6569